



11 月 号
平成 30 年 11 月 26 日

桜花爛漫

郷土を舞台に 夢に向かい ともに歩む学校

心豊かで
たぐいましい荘川っ子
・考える子
・思いやりのある子
・元気な子

荘川の未来を考える公表会

校長 水口 悟

橘始めて黄なり(たちばな はじめて きなり)

橘の実がだんだん黄色くなっていくころ。冬でもあおあおとした常緑樹で、万葉集にも登場します。(新暦では、およそ十二月二日～十二月六日ごろ 日本の七十二候を楽しむより)

◇ 荘川子育て ALL・STAFF



今年度の‘公表会’は、とても大きな挑戦でした。①土曜日の開催とし、保護者や地域の方々により参観しやすくしたこと②2期制を活かし小中学校は、これまでのPTA授業参観・懇談会としたこと③また、これまで12月に開催されていた「ふれあい研修大会」を後半に重ねて実施したこと④何より、12年間の成長を見ることができるよう会場(小学校)として開催したこと⑤子どもたちが作詞作曲した「ふるさと荘川」を保護者・地域の方々みんなで歌うきっかけづくりをしたこと などです。

こんなに盛り沢山の欲張った公表会ができるだろうか?と、正直、不安もありましたが、今月5日に行ったリハーサルを見て、これなら大丈夫!と不安はなくなりました。朝、交差点の所に、サポーターの岡田さんと立っていると、ニコニコとして小学校に集まって来る小・中学生たち。何かとても嬉しそうな表情です。校門をくぐると中学校3年男子生徒が、小学校の職員室に向かい「おはようございます」と爽やかに挨拶をしました。小学校にいるときに身に付け、現在でも中学校においても実践している習慣(ルーティーン)です。校内に入れば、保育園児と小学生児童と中学生生徒の日常的に自然に関わる子どもたちの姿や小学校という施設に何一つ戸惑うことなく自然に動く姿が見られました。全校放送が入ると、児童も生徒も体育館に入って雑壇に立ち、78名による合唱が始まる・・・。「君たちは、素晴らしい!!」

さらに、子どもたちが作詞作曲した「ふるさと荘川」も、素晴らしい!この歌詞が誕生してから約2年の時間を経て、初めて昨年度の卒業式や今年度の入学式で披露し、今回このような形で保護者や地域の方々と一緒に合唱されるまでに至ったことは、「お見事!」としか言いようがありません。



國島市長様の言葉の中に、「荘川のまちには‘つながりの広さ・深さ・強さ’がある」という言葉がありました。この「ふるさと荘川」に込められた荘川の子どもたちの思いを改めて噛みしめてみれば、きっと地域全ての人たちの心が温かくなり、一層つながりの深いまちになっていくことと思います。

「平成」最後になる年、市長さん副市長さんともに、荘川の子どもたちから大人までのありのままの姿を参観して頂けたことは貴重な財産です。今後、荘川の未来を切り開いていく上で、多少のリスクなど平気で乗り越えていくエネルギーに変えて、地域みんなで前を向いて胸を張って前進していきたいと思っています。



最後になりますが、合同運動会開催と同様に、この公表会開催にあたり、保、小・中学校の先生方が幾度となく集まり、校種の壁を超えて検討を繰り返して「挑戦し続けてきたこと」が、例えあたりまえのことであっても、大きな挑戦への原動力になっています。これからも、力を合わせてがんばります。

今朝も、「ふるさと荘川」を子どもたちの歌う声が響いてきます。